



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら



脳神経内科

アルツハイマー病の新しい治療

アルツハイマー病は、認知症の原因として最も多い疾患です。

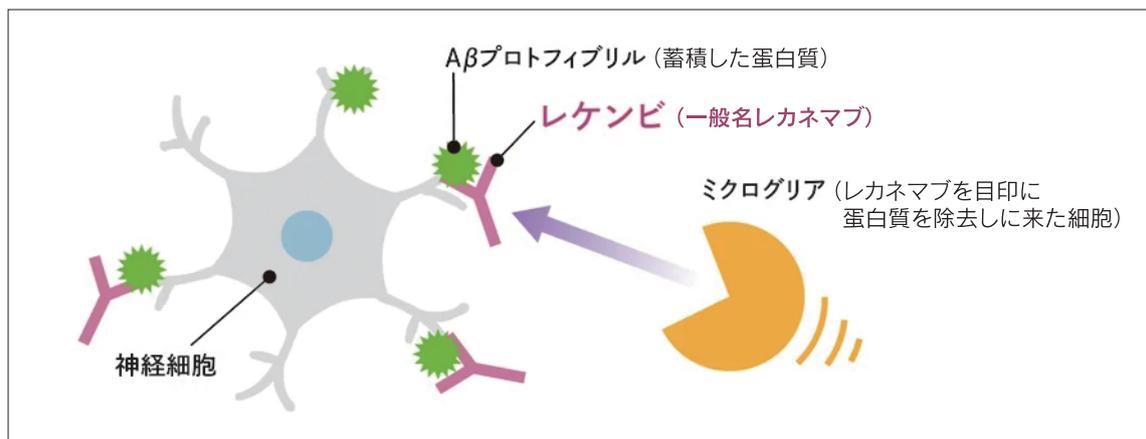
アルツハイマー病の治療には「**薬物療法**」と「**非薬物療法**」があります。

「非薬物療法」には、有酸素運動や歩行を行う運動療法や、ゲーム・ドリルなどを用いた認知刺激療法、過去のことを回想する回想法、音楽療法などがあります。

「薬物療法」には、学習や記憶に重要な「アセチルコリン」という物質を脳内に増やす薬や、過剰になっているグルタミン酸という物質を抑える薬が主に使われてきました。

2023年9月、新たなアルツハイマー病の治療薬である「**レカネマブ**」という薬が日本で薬事承認されました。アルツハイマー病は、脳にアミロイドベータやタウ蛋白という蛋白質が蓄積する事が原因と考えられています。このレカネマブは、アルツハイマー病の患者さんの脳内に蓄積したアミロイドベータに結合して、それを除去する、抗アミロイドベータ抗体製剤です。アルツハイマー病の原因に働きかける、世界で初めての治療薬として期待が寄せられています。臨床試験では、脳浮腫や脳出血の副作用があることもわかりましたが、この薬の点滴を2週間に1回、1年半つづけると、認知症の進行を約半年遅らせる効果も確認できました。長期的な効果については、これから明らかになってくると思います。

(脳神経内科 部長 麻生 泰弘)



Eisai HP (<https://medical.eisai.jp/leqembi/about/>)より引用

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)

リハビリ テーション科

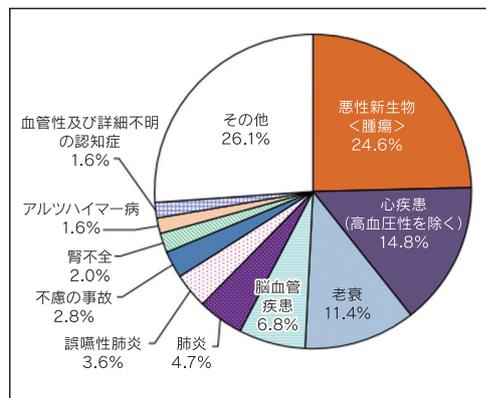
ご えん せい 誤嚥性肺炎に ならないために

2024年 11月 第196号

～今、出来ること～

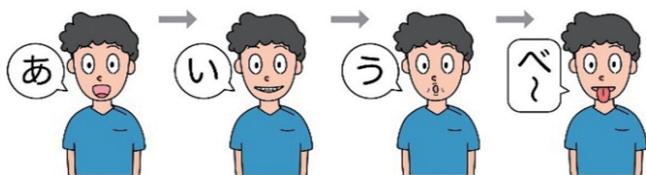
老化や脳血管障害の後遺症などによって、飲み込む機能（嚥下機能）や咳をする力が弱くなると、口腔内の細菌、食べかす、逆流した胃液などが誤って気管に入りやすくなります。このように本来気管に入ってはいけない物が気管に入ることを“誤嚥”といい、そのために生じた肺炎を“**誤嚥性肺炎**”と言います。

誤嚥性肺炎を起こすと、体力の弱っている高齢者では命にかかわるケースも少なくない病気です。実際、誤嚥性肺炎は、現在、日本の死因順位第6位であり年々増加傾向にあります。誤嚥性肺炎を引き起こすリスクを減らすためにも、**一次予防**が大切となります。



(引用：厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイト)

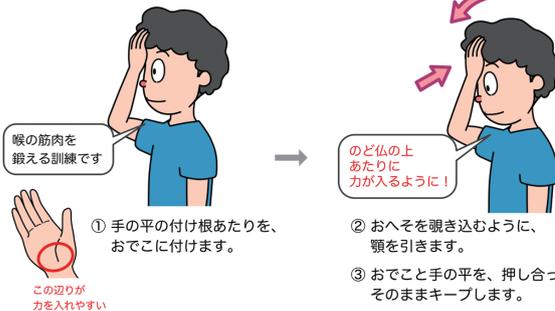
あいうべ体操



舌の筋肉をはじめ、口元の筋肉を鍛えられる方法です。1回に10セットを各食事前に実施してみましょう。

(引用：リハツバメ)

嚥下おでこ体操



喉元の筋肉を鍛える為に有効です。5秒間キープを5～10回程度実施してみましょう。(引用：リハツバメ)

一次予防

口腔ケア(歯磨き)

口腔内の細菌や食べかすを減らす事ができ、安全かつ効果的な方法です。



舌回し

右まわり



左まわり



時計回り、反時計回りそれぞれ10回ずつ行ってみましょう。舌の筋肉を鍛える、唾液が分泌されやすくなる効果があります。

頻繁にせき込む、痰が増えてきた、食事に時間がかかる、体重が減少してきた。このような症状は、誤嚥を疑う兆候の一つです。気になる症状がある際は、お近くの医療機関へご相談下さい。

よりよい食生活と健康を保つためにも適切なケアと肺炎予防を心がけましょう。

(リハビリテーション科 言語聴覚士 桑野 美紀、三好 優)



看護師ほか医療スタッフの臨時職員を募集しています。詳しくはこちら